

# 産婦人科領域に於ける Secondarybutylantipyrin-Barbital 製剤の使用経験

昭和35年8月9日受付

信州大学医学部産科婦人科学教室 (主任: 岩井正二教授)

大学院学生 中 村 靖 彦

大学院学生 津 田 達 雄

長野県厚生連佐久総合病院 (院長: 若月俊一博士)

山 田 貞 一

## Experiences with Secondarybutylantipyrin-Barbital Agents in Obstetrics and Gynecology

Y. Nakamura and T. Tsuda

Department of Obstetrics and Gynecology, Faculty of Medicine,  
Shinshu University  
(Director: Prof. S. Iwai)

T. Yamada

Saku General Hospital, Nagano Prefecture  
(Director: Dr. S. Wakatsuki)

### I 緒 言

近年薬学の進歩は極めて目覚ましいものがあり、各種の新薬剤が多数発表されている。鎮痛剤も疼痛に対する対応策の研究の進展に伴いつぎつぎに発売されているが、仲々決定的なものはない現状である。吾々は今回グレラン製薬より Secondarybutylantipyrin-Barbital 製剤 (GK 101, GK 106) の提供をうけ、産婦人科領域に於ける各種疼痛に使用する機会を得たので以下その成績に就き報告する。

### II GK 101, GK 106 の組成

GK の主成分をなすものは Secondarybutylantipyrin と Barbital の分子化合物である。両者の1分子ずつの分子化合物 (以下 B. A. B<sub>(1+1)</sub> と略) は融点 136° の白色針状結晶を形成するが、此の B. A. B<sub>(1+1)</sub> に更に1分子の secondary butyl antipyrin を抱合せる分子化合物 (以下 B. A. B<sub>(2+1)</sub> と略) も同様白色針状結晶で、何れも水に難溶、アルコールに易溶、ベンゼン、エーテルには僅かに融解を示す。動物実験に於ける LD<sub>50</sub> (腹腔内) は B. A. B<sub>(1+1)</sub> 1230mg/kg, B. A. B<sub>(2+1)</sub> は 498mg/kg とアミノピリン 253mg/kg, ピラピタール 270mg/kg より良好な成績が発表されている。GK 101, GK 106 は上記 B. A. B と合成珪酸アルミニウムより成る白色錠剤で一錠中の組成は下記

の如くである。

即ち

GK 101:	B. A. B <sub>(1+1)</sub>	0.15gr
	合成珪酸アルミニウム	0.05gr
GK 106:	B. A. B <sub>(2+1)</sub>	0.15gr
	合成珪酸アルミニウム	0.05gr

### III 実験材料並びに実験方法

信大産婦人科外来、入院患者で各種疼痛 (月経困難症、分娩後陣痛、中絶術後疼痛等) を訴える患者 50 例。(GK 106 は婦人科以外の疼痛 5 例にも使用)。投与方法は屯服の場合は 1 回 2~4 錠まで、1 日 3 回の場合は 1 回 2 錠ずつ毎食后 30 分に服用せしめた。効果の判定は服用後に自覚的疼痛の消失、緩和を目的とし記載せしめた。副作用は全身倦怠感、悪心、嘔吐、不安感、食慾、睡眠等に就て問診した。

### IV 臨床成績

GK 101 投与 25 例, GK 106 投与 25 例 (他に 5 例) の臨床成績は第 1, 2 表の如くである。尚表中 (++) は著効, (+) は有効, (±) は稍有効, (-) は無効を示す。

鎮痛効果 (+) 以上は GK 101 は 25 例中 20 例 (80%), GK 106 は 25 例中 21 例 (84%) と略同様の成績を示した。尚副作用としては GK 106 例に嘔気、嘔吐を訴え

第 1 表 GK 101 の臨床成績

症例番号	患者	年齢	病名	疼痛	1日量	効果	副作用
1	宮 〇	29	旁結合織炎	子宮摘出術后疼痛	2T 屯用	(±)	(-)
2	木 〇	59	慢性附属器炎	下 腹 痛	2T × 3	(+)	(-)
3	望 〇	41	急性附属器炎	腰 痛	2T × 3	(±)	(-)
4	鶴 〇	49	附属器腫瘍	下 腹 痛	2T × 3	(+)	(-)
5	松 〇	28	妊娠中毒症	頭 痛	2T × 3	(+)	(-)
6	吉 〇	29	子宮外妊娠	術 后 疼 痛	2T × 3	(+)	(-)
7	上 〇	62	子 宮 痛	腰 痛	2T × 3	(±)	(-)
8	渡 〇	25	月経困難症	下 腹・腰 痛	2T × 3	(+)	(-)
9	中 〇	24	月経困難症	下 腹・腰 痛	2T × 3	(+)	(-)
10	湯 〇	27	月経困難症	腰 痛	2T × 3	(+)	(-)
11	花 〇	30	妊娠 7ヶ月	腰 痛	2T × 3	(+)	(-)
12	飯 〇	27	妊娠 8ヶ月	腰・大腿部 痛	2T × 3	(+)	(-)
13	中 〇	26	妊娠 8ヶ月	腰 痛	2T 屯用	(+)	(-)
14	竹 〇	23	妊娠 10ヶ月	后 陣 痛	2T × 3	(+)	(-)
15	高 〇	26	妊娠 10ヶ月	后 陣 痛	2T × 3	(+)	(-)
16	山 〇	22	妊娠 10ヶ月	后 陣 痛	2T × 3	(+)	(-)
17	田 〇	25	妊娠 10ヶ月	后 陣 痛	2T × 3	(+)	(-)
18	三 〇	29	妊娠 10ヶ月	后 陣 痛	2T × 3	(+)	(-)
19	中 〇	29	妊娠 10ヶ月	后 陣 痛	2T × 3	(+)	(-)
20	藤 〇	27	妊娠 10ヶ月	后 陣 痛	2T × 3	(+)	(-)
21	市 〇	30	妊娠 10ヶ月	后 陣 痛	2T × 3	(+)	(-)
22	市 〇	47	機能性出血	抓 把 后 疼 痛	2T 屯用	(+)	(-)
23	鈴 〇	36	妊娠 3ヶ月	中絶術后疼痛	2T 屯用	(±)	(-)
24	米 〇	41	妊娠 3ヶ月	中絶術后疼痛	2T 屯用	(±)	(-)
25	小 〇	35	妊娠 2ヶ月	中絶術后疼痛	2T 屯用	(+)	(-)

たものが1例宛あつたのみでGK 101例では特記すべき副作用は全例に認められなかつた。

## V 考 案

疼痛は発熱と同様独立疾患ではなく、1つの徴候であるが対症処置としての鎮痛は臨床的に極めて大きな意義を有している。然し乍ら疼痛感覚の成立機構は複雑で未だ不明な点も多く、加うるに精神的要素も関与して、これを客観的に計る適確なインジケータのない事が大きな欠点とされ、尚今後多くの問題が残されている。

鎮痛剤は(I)大脳の痛覚中枢を麻痺する皮質性鎮痛剤(モルヒネ属)、(II)間脳の視丘体を麻痺する視丘性鎮痛剤(アンテピリン・サルテル酸属)、(III)痛覚伝導路の中間を麻痺する局所性鎮痛剤(コカイン属)等に大別される。この中(II)の非麻薬・非アルカロイド性鎮痛剤は元来解熱剤に属するものであるが、特にピラツオロン誘導体の臨床に於ける位置は大き

く、これに催眠剤を配伍することにより両者の反作用が相殺(解熱剤の興奮性と催眠剤の鎮静作用とが拮抗)されて強力な鎮痛作用を発現する事は周知の事実であつて、GK 101, GK 106も亦斯る配慮に基づき新たに合成された鎮痛剤である。各種の基礎実験に於ても本剤の疼痛閾値はピラビタール、スルピリン、アミノピリン、アスピリンアルミニウム等に比し最も高い結果が報告されている。

吾々は今回GKを産婦人科領域各種疼痛に使用、その効果につき観察を行つたが、従来の鎮痛薬に比し、極めて確実なる鎮痛作用が得られ、且つ副作用も殆どなく鎮痛剤として優秀な面の多い事を認めた。

## VI 結 論

- 1) 信大産婦人科外来、入院患者50例にGK 101, GK 106錠を経口投与しその効果を調査した。
- 2) 有効率はGK 101では25例中20例80%, GK 106では25例中21例84%であつた。

第 2 表 GK 106 の臨床成績

症例番号	患者	年齢	病名	疼痛	1日量	効果	副作用
1	小	○ 21	月経困難症	下腹痛	2T × 3	(+)	(-)
2	勝	○ 27	月経困難症	下腹痛	2T × 3	(+)	(-)
3	学生 A	20	月経困難症	下腹痛	2T × 3	(±)	(-)
4	学生 B	20	月経困難症	下腹痛	2T × 3	(+)	(-)
5	学生 C	20	月経困難症	下腹痛	2T × 3	(+)	(-)
6	山	○ 24	妊娠中毒症	頭痛	2T 屯用	(±)	(-)
7	松	○ 26	妊娠 10ヶ月	后陣痛	2T × 3	(+)	(-)
8	井	○ 31	妊娠 10ヶ月	后陣痛	2T × 3	(+)	(-)
9	青	○ 29	妊娠 10ヶ月	后陣痛	2T × 3	(+)	(-)
10	小	○ 29	妊娠 10ヶ月	后陣痛	2T 屯用	(+)	(-)
11	山	○ 35	妊娠 10ヶ月	后陣痛	2T × 3	(+)	(-)
12	原	○ 39	妊娠 7ヶ月	中絶術后腹痛	2T × 3	(+)	(-)
13	桜	○ 30	妊娠 3ヶ月	中絶術后腹痛	2T 屯用	(+)	嘔吐
14	熊	○ 30	妊娠 2ヶ月	中絶術后腹痛	2T 屯用	(+)	(-)
15	中	○ 29	妊娠 10ヶ月	分娩時会陰裂傷	2T × 3	(+)	(-)
16	白	○ 34	悪性絨毛上皮腫	外陰部疼痛	2~4T 屯用	(+)	(-)
17	木	○ 40	子宮癌	腰痛	2T × 3	(±)	(-)
18	坂	○ 34	子宮癌	腰痛	2T × 3	(+)	睡気
19	山	○ 46	子宮癌	腹痛	2T 屯用	(+)	(-)
20	山	○ 41	子宮癌	腰痛	2T × 3	(±)	(-)
21	モタ	○ 26	不妊症	卵管造影術后腹痛	2T 屯用	(+)	(-)
22	大	○ 25	不妊症	卵管造影術后腹痛	2T 屯用	(+)	(-)
23	小	○ 25	不妊症	卵管造影術后腹痛	2T 屯用	(+)	(-)
24	赤	○ 31	付属器炎	下腹痛	2T × 3	(+)	(-)
25	百	○ 29	外陰部膿瘍	外陰部痛	2T 屯用	(+)	(-)
26	本	○ 23		頭痛	2T 屯用	(+)	(-)
27	塚	○ 30		歯痛	2T 屯用	(+)	(-)
28	小	○ 30		頭痛	2T 屯用	(-)	(-)
29	学生 D	20		季肋部痛	2T 屯用	(±)	(-)
30	竹	○ 23		頭痛	2T 屯用	(+)	(-)

3) 副作用は GK 106 に睡気、嘔吐を各 1 例認めただけで他には特記すべきものを認めなかつた。

以上の成績より Secondarybutylantipyrin-Barbital の新製剤は臨床上使用価値のある鎮痛剤であると考えられる。

(岩井教授の御指導と御校閲を感謝する。)

文 献

①石浜：産と婦 24：5，453，1957 ②小林・他：臨婦産 11：4，211，1957 ③北井：産婦の世界 10：10，117，1957 ④小林：産婦の世界 8：4，414，1956 ⑤河辺：産と婦 24：8，717，1957

⑥小浜・他：産と婦 23：9，818，1956 ⑦森：産と婦 24：9，813，1957 ⑧野口：産婦の実際 8：5，70，1958 ⑨関本：産と婦 24：6，528，1957 ⑩新甲・他：産と婦 24：7，622，1957 ⑪里井：産婦の世界 7：7，1303，1957 ⑫土屋：産と婦 23：6，588，1956 ⑬高邑：臨婦産 11：8，565，1957 ⑭竹島：産と婦 25：7，646，1957 ⑮田中：産と婦 24：3，254，1957 ⑯渡辺：臨婦産 12：3，185，1957 ⑰安井・他：臨婦産 11：1，29，1907 ⑱山田・他：臨婦産 11：10，727，1957 ⑲安井：産と婦 23：1，44，1956 ⑳山本：臨婦産 12：6，465，1958